

橋本健一郎、中村創一郎両氏対談

○九年五月の上海モーターショーでの対談から一年八カ月。

世界経済がどん底の中をさまよつていた当時から急成長を続ける中国。ようやく回復の兆しを見せ始めた現在、中国の状況・先行きはどうなのか? また日本はどのような資源戦略を描けばいいのか?

上海万博の現場からレアメタル商社 上海UMCの中村創一郎総經理と二〇一年の資源戦略を考える。

橋本(以下H)

お久しぶりです。前回の訪中一年後から開催された上海万博。入場者数も過去最多の七、三〇〇万人と大成功のようでしたが?

中村(以下N)

そうですね、大阪万博を超えて万博史上最大の規模となりましたね。世界に与えたインパクトはかなり大きいのではないでしようか。

同時に、大阪万博のちの日本がアジアの盟主になつたように、今後は中国にバトンタッチした、という印象を持っています。

H たしかに相変わらず中国は元気ですね! この万博会場でも熱気がムンムン伝わってきます。

ところで上海万博に伴う工場の稼働規制が解除されると報道される一方、一〇年は第一次五カ年計画の最終年であり、目標達成のために厳しくなつたとの報道もありますがどうなのでしょうか?

N 環境のために経済成長を抑えるとは考えにくいという意見が大勢ですが?

H 手段を選ばないので、必ず実現すると思います。※(事実、目標達成のために電力制限等も含めアルミニ精錬生産量が減少した。)

N 目的のためには・・・ってところがいかも中国らしいですね。

では最近の中国の外交姿勢 資源姿勢にどう考えてますか?

N レアアースの禁輸措置を含め、中国の資源買い込みは苛烈さを増しています。ただ中国の影に隠れて見えないので、オーストラリアやカナダといった国々も自国の資源を安売りしないようになっています。

で、世界中で資源ナショナリズムが当たり前になつているのが実態です。

そんな中で、日本政府が資源確保のために動いていますが、我々の立場から見れば、遅すぎた感があります。また方向性も間違っています。資源確保の設備や研究を考えているみたいですが、安い時に資源を買い叩いて、三年ぐらいは困らないぐらいの在庫をするのが正解だと思います。

H なんだかんだいっても、資源はありますので、相場があがつた際のセーフティーネットがあれば、相場の大高騰という事態にはなりませんので。

レアアースも二〇一〇年初は五ドルだったランタンが、いまでは七〇ドルを超えていましたが、中国国内は在庫が積まれており、メタルは困っていますよ。

H なるほど中国というか資源戦略全般に言えることですが単なる需給では説明できず、戦略に利用される場合も多いですからね。ところで、昨年末、二〇一二年から始まる第二次五カ年計画草案が中国当局から発表されました。印象的だったのはGDP数値目標をはじめとする具体的な数値目標がなかつたこと。

いいよ中国は激しい成長から内需拡大、富の再分配 邓小平の先富論(※)に入つていく、と考えていますが、そうなれば中国は世界の工場から世界のマーケットへ、それに伴い工場や資源の調達先という考え方から脱却し世界一の消費国と認識していく必要があります。事実、中国特需期待の影響でLMEカツバは前回の〇九年五月から四、五一五ドル(セツルメント)から約二倍の九、七五ドル(LMEセツル 一月五日)まで急騰しました。

レアメタルはどんな状況ですか?

N 強いですね。私の専門はゲルマニウム ガリウムですが、需要が強いわけではないのに価格は高騰しています。需要はあとからついてくるという考え方で、まずは相場ありき、という雰囲気になつてていますね。

(六面へ続く)

※先富論(せんぶろん)とは

一九八五年頃から鄧小平が唱えた改革開放の

基本原則を示すもの

『可能な者から先に裕福になれ。そして落伍した者を助けよ』